

1 学校課題

本校はどの学年も25名前後であり、大規模校と比べると個別指導が行き届きやすいが、社会の変化に伴い、児童一人ひとりの個性は多様化し、学習意欲や学習能力の個人差も大きい。

昨年度の算数科における児童の実態については、「学習習慣、学習規律、基礎的な学力の定着が不十分である。」「学力の散らばり（個人差）が大きい。」「自分の考えを自分の言葉で表現することへの苦手意識が高い。」「家庭学習とともに自主的な学習への取り組みを徹底させる必要がある。」などが挙げられている。

このような実態から、本校では算数科において「児童が自主的に学習する意欲と、学習への目的意識を持つこと」「基礎的・基本的な知識及び技能を身につけた上でそれらを用いたり活用したりすること」「自分の考えをわかりやすく表現したり説明したりすること」などが課題であると考えられる。

2 研究主題

「自ら考え、進んで表現できる児童の育成」
～主体的・対話的で深い学びを通した算数科の工夫と改善～

3 主題設定の理由

(1) 学校教育目標具現化の立場から

「知・徳・体」の調和がとれた人間性豊かな児童の育成を具現化するために、「知」においては基礎的・基本的な学力の定着とともに自分なりに知識を活用し、自らの考えを進んで表現できる児童の育成が大切であると考え。そうした力をつけることで、いずれは教育活動全体に渡って「自ら考え、進んで表現できる児童が育つのではないか。」と考えこの目標を設定した。

(2) 今日の課題から

今日、求められている「確かな学力」の中には、基礎的・基本的な知識・技能の習得は勿論、知識・技能を活用して、自分や人の考えを言葉または文章で表す表現力も一つの大事な要素とされている。知識を蓄えるだけでなく、その蓄えられた知識を活用し、自分なりに考えて課題を解決したり、自分の考えを表現したりする力をつけることが必要になってくる。集団の一員として、明るく、よりよい人間関係を育む基盤となる力を身につけておくためには、相手の考えを理解し、尚且つ自分の考えを相手に的確に伝える力が必要不可欠である。自分なりに考え、相手のよいところを自分の中に取り入れつつ、自分の思いを表現できる力を育てていくことが大切である。

(3) 昨年度の研究から

本校は、平成25年度から算数科を中心に研究を進めてきた。昨年度は「自ら考え、進んで表現できる児童の育成～数学的活動の充実を図る指導の工夫を通して～」をテーマに研究を進め、今年度は、その継続研究に入る。昨年度の研究の成果として、「数学的活動」の理論研究を深め、研究授業において「進んで表現し合う場面やしかけを工夫した授業」や「意欲を引き出し多様な考えが出る課題を工夫した授業」の取り組み、一人一実践の授業公開、日常的な取り組みとして「Teacher's note」の活用と共通理解などが挙げられ、これらに取り組むことにより研究を深めることができた。

以上のことから今年度は、昨年度までの研究の成果を生かし、基礎・基本の定着を図るとともに上記の指導を継続しながら、主体的・対話的で深い学びを通した算数科の工夫と改善についての研究を行う。それにより本校児童の課題である学習意欲や学力差、表現力などの解決につながり、児童が目的意識をもって課題に取り組みながら表現力を向上させていけると考え、本研究主題を設定した。

4 研究の具体的内容と方法

(1) 研究内容

- ・授業実践および授業公開の実施
- ・理論研究、学習会（算数、道徳、ICTの活用、外国語活動に関わって）
- ・一人一実践の取り組み
- ・児童の実態把握（学習アンケート、NRT検査、Q-U検査等）
- ・学習規律・学習環境づくりのための日常的な取り組み
- ・甲州市「確かな学力」育成プロジェクトとの連携

(2) 研究方法

- ・全体研究会とブロック研究会（低学年・高学年）を取り入れた研究体制で研究を行う。
- ・講師を招いて、児童の実態に合った理論研究を行う。
- ・研究授業をし、授業公開を行っていく。
- ・児童に、研究テーマに関わるアンケートを行い、実態や変容について把握する。
- ・NRT 検査や Q-U から、児童の実態を把握し、具体的な指導方法を研究する。
- ・甲州市「確かな学力」育成プロジェクトとの連携を図っていく。

年間校内研修計画

相川 和彦

研究テーマ	教科領域	担当者	学年	授業の時間	TC 要請
1◇学校課題，研究主題，研究内容・方法，年間計画・日常の取り組み等について	算数科	研究主任	全体		
2◇学習アンケートについて ◇Teacher's note の活用	算数科	研究主任	全体		
3◇学習アンケート（1回目）の結果から ◇一人一実践授業公開について	算数科	研究主任	全体		
4◇K-1 3法を用いた分析方法について 甲州市「確かな学力」育成プロジェクト講演会	学級づくり	ブロック長	ブロック		
5◇児童の実態把握（NRT 検査の結果から） ◇K-1 3法を用いた分析方法について 甲州市「確かな学力」育成プロジェクト講演会	教科指導	研究主任	全体		
6◇理論研究	算数科	研究主任	全体		○
7◇児童の実態・アタックシート共通理解 甲州市「確かな学力」育成プロジェクト講演会	学級づくり	研究主任	全体		
8◇研究授業について	算数科	研究主任	全体		
9◇教育課程の還流報告 ◇理論研究	教育課程 道徳	研究主任	全体 全体		○
10◇全国学力把握調査の分析結果について			全体		
11◇理論研究	外国語	研究主任	全体		○
12◇指導案検討	算数科				
13◇指導案検討 甲州市「確かな学力」育成プロジェクト講演会	算数科				
14◇指導案検討	算数科	授業者	全体		
15◇研究授業	算数科	研究主任	全体		○
16◇K-1 3法を用いた分析	学級づくり	ブロック長	ブロック		
17◇K-1 3法を用いた分析 ◇学習アンケート（2回目）の結果と考察 甲州市「確かな学力」育成プロジェクト講演会 甲州市「確かな学力」育成プロジェクト講演会	学級づくり 算数科	ブロック長 研究主任	ブロック 全体		
18◇校内研究のまとめについて	算数科	研究主任	全体		
19◇研究の成果と課題，来年度の方向性について	算数科	研究主任	全体		